

表彰区分	マロニエ建築賞・マロニエ建築賞 環境にやさしい建築賞	
作 品 名	小山市立間々田中央保育所	
所 在 地	小山市間々田 790-1	
用 途	保育所	
建 物 概 要	構造： 木造	敷 地 面 積：4,832.13 m ²
	階数： 地上 1 階、地下 0 階	延 べ 面 積：1,511.54 m ²
建 築 主	栃木県小山市中央町 1-1-1 小山市長 浅野 正富	
設 計 者	栃木県宇都宮市富士見が丘 3-19-28 株式会社シオダ建築デザイン事務所	
設 計 者	東京都新宿区北新宿 4-20-8 サン北新宿 1F 株式会社 DOG 一級建築士事務所	
施 工 者	栃木県小山市城山町 1-3-26 板橋・保坂特定建設工事共同企業体	
講 評	小山市間々田地区に点在していた 2 つの保育所を統廃合して新設された木造保育所である。建物の平面は地域の重要無形文化財「間々田のじゃがまいた」の龍頭蛇体をイメージして計画されており、トチノキを配した中庭を取り囲むような J の字の構成となっている。室内は年齢ごとにゾーニングされた保育室と木製デッキを持つ中庭の間に、プレイルームやランチスペースを兼ねた幅広い廊下が配置された開放的な空間構成であり、子供達が伸びやかに過ごせるのみならず保育士の視点から見通しの良い空間となっている。さらに木造では表現が難しい緩やかな曲線形状を設計・施工上の工夫により成立させている点も加え、総合的にマロニエ建築賞にふさわしい作品と評価された。また本作品は「環境にやさしい建築賞」も同時受賞している。自然光を取り入れるパッシブな設計などで基準を大きく超える省エネルギー化を実現していることや木質化による二酸化炭素の固定化が評価されたことに加え、既製品の遊具を設置せずに、地下水を利用した親水設備や築山など身近にある環境資源を活用し、子供達が環境に親しめる園庭としていることも高く評価された。	
		
©中山保寛		

表彰区分	マロニエ建築賞 優良賞（まちづくり貢献賞）	
作 品 名	文化交流拠点 人と表現が集まる場所 のんき	
所 在 地	宇都宮市中央本町 1-8	
用 途	文化交流施設	
建 物 概 要	構造： 木造	敷 地 面 積：177.85 m ²
	階数： 地上 2 階、地下 0 階	延 べ 面 積：185.02 m ²
建 築 主	栃木県宇都宮市二荒町 8-15 一般社団法人釜川から育む会	
設 計 者	栃木県宇都宮市中央 5-1-2 ビルトザリガニまちづくり合同会社+アンテロープ一級建築士事務所+佐原建築設計室	
施 工 者	栃木県宇都宮市戸祭町 2755-3 株式会社 ZEROBASE	

講 評

宇都宮の中心市街地を流れる釜川沿いで古くから親しまれ、惜しくも 2018 年に閉店したおでんや「のんき」の文化交流拠点への再生計画である。中心となる「のんき」の建物は昭和 50 年代に建築された当時の雰囲気を残す 2 階建て木造建築である。単なる保存にとどまらず 1 階はシンボルであった木製カウンターなど既存建築物の痕跡を残しつつ新たな店舗としての用途に対応する改修を行い、2 階はあえて必要最小限の改修にとどめて建物自体をも表現活動の素材とした空間を提供している。時間軸として昭和から引き継がれる文化の連続性が感じられ、そこに自由度を持った空間が存在することが新たな価値を生み出している。「のんき」を拠点とした活動と、建築としての「のんき」の評価を分けて考えるべきか否かに議論の余地があるものの、釜川周囲で人や表現が集まる場所を継続した活動から作ろうとする姿勢は評価でき、その活動の蓄積が建築として表現されているとも言える。以上より本作品は「まちづくり貢献賞」の副題を添えてマロニエ建築賞優良賞にふさわしいと評価された。



photo©長谷川健太

表彰区分	マロニエ建築賞 優良賞	
作 品 名	足尾銅山記念館	
所 在 地	日光市足尾町 2281-1	
用 途	博物館	
建 物 概 要	構造： 木造 一部組積造	敷 地 面 積：4,440.99 m ²
	階数： 地上 2 階、地下 0 階	延 べ 面 積：1,329.65 m ²
建 築 主	栃木県日光市足尾町 2281-1 一般社団法人古河市兵衛記念センター	
建 築 主	東京都千代田区大手町 2-6-4 古河機械金属株式会社	
設 計 者	東京都港区虎ノ門 1-23-1 株式会社日本設計	
設 計 者	東京都千代田区大手町 2-6-4 古河林業株式会社	
施 工 者	東京都千代田区大手町 2-6-4 古河林業株式会社	
講 評	明治 44 年に建設された足尾鋳業所を創建当時の場所（現日光市足尾町）に再建するプロジェクトであり、再建された建物は足尾銅山に関係した歴史資料を展示する記念館として運営されている。隣接する旧足尾銅山鋳業事務所付属書庫をはじめ歴史的建造物が多く残る地区で当時の外観が忠実に再現されていることから、将来も周囲の建造物のみならず山間の自然景観とあわせ地域の資産として運用していくことによりさらに価値を高めていくことも期待できる。再建にあたり、残された資料を丹念に読み解き、資料を有する箇所は忠実に当時の姿を再現し、資料の無い箇所は推測による再現を排して復元部分と明確な区分を行っている。加えて展示館としての必要な機能は機械設備を用いながらも復元部分と違和感なく調和させている。歴史的建造物の再建の意義やその方法論について議論の余地はあるものの、今回の再建は関係者が明確な理念を持って取り組んでおり、このことは文化遺産保存のありかたの方向性を示している好例と判断しマロニエ建築賞優良賞にふさわしいと評価された。	
 ©川澄・小林研二写真事務所		

表彰区分	マロニエ建築賞 優良賞	
作 品 名	つらなりの家	
所 在 地	日光市	
用 途	住宅	
建 物 概 要	構造：木造	敷 地 面 積：275.77 m ²
	階数： 地上 1 階、地下 0 階	延 べ 面 積：145.75 m ²
建 築 主	個人	
設 計 者	東京都新宿区矢来町 41 ザフタガミハウス 2 号室 株式会社アトリエ MEME	
施 工 者	栃木県宇都宮市上横倉町 309 株式会社イケダ工務店	
講 評	東武日光駅からほど近く、日光街道から路地に入った住宅地に建てられた平屋の戸建て住宅である。凹凸のある特徴的な外観と、同じく凹凸のある内部空間は、施主の要望とそれを受け入れた設計者の方向性が一致した結果であり、まさに個人住宅らしい建築である。大きさや形状の異なる箱を少しずつずらしながら緩やかに連ねた建物であり、入り口から奥の個室空間へ向かう動線をたどると初めて訪れる者にとっては秘められた感覚を持たされる空間である。中央に設けられた居間は箱の凹凸により縁取られ、壁面や天井の高低差や箱形の収納スペースと併せて起伏のある空間を作り出している。一見すると非合理的な空間にも感じられるが、この緩やかに分けられた空間の中から家族はそれぞれ自ら心地よい居場所を見いだし、思い思いにすごしている様子がうかがえる。さらにこの形状の隙間を利用し、周辺環境や外部との緩やかなつながりを調整する窓のあり方へと展開している点も含め、多様性を持つ個人住宅建築の解のひとつとしてマロニエ建築賞優良賞にふさわしいと評価された。	
	 ©沖裕之／Blue Hours	